

豊かな自然に四季のにおりと舟唄のこだまする村  
戸沢村勢要覧2002



[とざわ]



## 最上川

水清く、とうとうと流る。

ここ、戸沢村は

豊かな自然に

四季のかおりと

舟唄のこだまする「むら」

うるおいの「むら」

心のかよいあう「むら」

最上川は俳人、芭蕉・子規らを

魅了した豊かな自然と

四季の風情を川面に映し

今日も私たちを見守っている。

明日も旅人を

あたたかく迎える。



# 「自然と親しむ」

最上峡舟下りは最上川県立自然公園に指定されている最上川中流部にあたる古口〜草薨間を一時間にわたって下るものです。古口の船番所は松尾芭蕉がこの地まで舟で下り、番所で通行手形を受け取った所として、現在は舟下りの乗船場および観光客の憩いの場として広く利用されています。

の裾野が迫り、山腹には古来より神代杉（別名山ノ内杉・土湯杉）と呼ばれてきた名木の群生が見られます。最上峡舟下りはこれら景観を眺めながら、俳聖松尾芭蕉と曾良のたどった足跡



**ブナ林**  
ブナの芽吹きは雪の上から始まりません。緑と白のコントラストは幻想の世界。萌黄色から躍動があふれています。

三ツ沢川の解禁日にあわせて行われている釣り大会で、二百余名の釣り人が参加します。大物賞、大漁賞をめざし、県外遠くは北関東からも数多くの釣り人が訪れます。常連の方や大会にかかわらず溪流を楽しんでいる方も多く、地域の方々と新たな交流に広がっています。

## イワナ・ヤマメ釣り大会



## イカダ下り

夏の最上川では、丸太運びから縄ないまで自ら作った「イカダ」で川下りを楽しむことができ、ゆっくりとオールを漕ぎながら自然の中に溶け込むことができます。家族連れや若者たちに人気があります。また、スピード感を体感できるカヌーも楽しむことができます。



この区間は「最上峡芭蕉ライン」と呼ばれ最も美しい優れた景観で右岸から流れ出る「白糸の滝」をその代表として四十八滝が奇観を呈しています。また、常陸坊海尊開起と言われる外川仙人堂等の名所古蹟があります。一方、左岸は土湯山及び板敷山



です。白糸の滝ドライブインを発着するウォータージェット船は所要時間一時間の遊覧船です。こうした風趣に富んだ河川は四季を通じて乗船客の眼を楽しませてくれます。

## 自然体験イベント一覧

### ★最上峡めぐり

四季を通じて楽しむことができる景観と歴史。散策をすると新たな発見があるかも。

### ★西山観光わらび園

村自体が観光わらび園といっても過言ではありませんが、まずはここから。

### ★溪流釣り

村内の河川には、溪流魚が一杯。釣りの醍醐味を満喫してください。

### ★イワナ・ヤマメ釣り大会

(6月第2日曜)  
溪流解禁日に開催され、釣りの醍醐味はもちろん、釣り談義にも花が咲きます。

### ★カヌーマラソン

(7月第1日曜)  
初夏の水面を思い思いのスピードで走り、あたたかい笑顔の待つゴールを目指します。



最上川の歴史は、わたしたちの歴史。  
「とぎわ」の自然散策は舟下りから。





# 「歴史に親しむ」

戸沢村の往古は北部地域の鮭延氏と清水大蔵公、それに庄内の武藤氏の三巴の激戦地であり、中部地域は山形県の文化移入路として最上川に沿って早くから開けていました。南部地域は山岳宗教の華やかな時代には、出羽三山の登山口として発展史上特異な地域でもあります。今か



〈今神御池〉  
今神温泉の上流に「御池」という陥没湖があり、周囲の絶壁は火山泥が赤く崩れ、周囲の樹木と相対し幽すいの感にうたれます。

ら約四〇〇年程前の元和八年、戸沢政盛公が常州松岡城から新庄に移封されて以来、およそ三〇〇年間新庄藩の所領として、明治維新に及び、明治四年廃藩置県によって新庄県に属し、同九年山形県に編入されました。昭和二十八年の町村合併促進法により産業、経済、生活環境等

で密接な関係にあった戸沢村、古口村、角川村の三ヶ村が昭和三十年四月一日に合併し古口村として発足しました。同年五月一日に村名公募により戸沢村と改称して今日に至っています。



〈正岡子規の句碑〉  
明治二十六年八月、俳聖芭蕉の足跡をたどった、正岡子規の「朝霧や船頭うたふ最上川」の碑です。



〈長倉の大杉〉  
天然記念物に指定された長倉の大杉は、樹齢千二百年を誇っており、他の樹木を圧する姿は、まさに古老の風格をただよわせています。



## 古口白山神社祭典

八月十六日古口の氏神白山神社の祭礼として、神輿渡御行列がヤレノ歌のなか地区を一巡します。ヤレノ歌は御船歌と言われる祝いの歌の一種で、藩侯等に所属した御船手や御水主衆が藩侯の乗船や船の進水式の際に合吟されたものです。庄内藩主酒井侯が参勤交代のおり、最上川を本合海までさかのぼる際、河沿い集落である古口、杵喰、外川、柏沢等に舟引き人足を介して定着し、新庄まつりの神輿渡御行列と結び付いたものと考えられ、明治二十年頃から始まった祭典と思われます。

## 津谷神社祭典

津谷神社はその昔、太子堂と呼ばれ、寛政十年(1798)に奉納された梵鐘名によれば、津谷野の開発主大川与五兵衛が、聖徳太子の御国繁栄に感応し、村の繁栄、五穀豊饒、身体堅固を願って村を一望できる高台に建立し、村の鎮守としたと記されています。また、元和五年(1619)年の最上源五郎の家臣日野将監の蔵人帳に、太子堂の所在と仏供米が記されていることや地名に太子堂、太子田とあることから、太子信仰によるものと考えられています。その祭典として、八月十日に神樂奉納、八月二十日に神輿渡御、山車行列が行われます。



先人が語りかけてくる  
自然の中に息づいた伝統、遺産に触れる。





# 「交流」

## 【都市との交流】

### モモカミアルカディア眺河の丘整備事業

## 『日・韓友好の村』

1989年、アジア学院を介して韓国農村との出会いが作られ、日本の農業を学ぶために堤川市松鶴面から視察交流団が戸沢村を訪問、戸沢村の青年達も韓国を訪れ友人として交流が始まりました。以来、農業技術の交流・子供たちの交流・婦人たちの食文化の交流と、互いの文化を学び、ともに地域の発展に結び付けようと努力しています。そして、最上川をテーマとした雄大な『モモカミアルカディア事業』として、韓国文化を体験し、相互理解を深め合える交流拠点施設『日韓友好の村』へと発展しました。



本場韓国のキムチづくりを指導



農業技術の交流

韓国堤川市松鶴面との交流が1989年から始まりました。地形や自然環境が似ていることから、農業技術の交流が盛んに行われています。毎年10数名の農村リーダーが戸沢村を訪れ、研修を行い、韓国での冬季農業としてタラの芽や野菜栽培、菌茸の施設生産等に取り組んでいます。また、戸沢村からも農業技術交流で多くの青年たちが韓国を訪問し研修をしてきています。



日韓児童交流

1998年から行われ、「こども親善交流大使」として訪韓、参加した子供たちは日本と韓国の言葉や生活習慣の違いを目と耳で体験し、ホームステイ等を通じて、世界のどの国よりも日本と関わり深い韓国農村の子供たちと直接交流が実現しています。以前は3回ほど韓国から児童交流団が訪れています。



モモカミ農楽祭

1997年、韓国文化を紹介する高麗館がオープンし、第1回農楽祭（収穫を感謝する韓国の伝統的な祭）が開催され、以後毎年行われています。韓国の民俗舞踊団による伝統芸術の公演や韓国・中国・フィリピンからの花嫁さん方による食文化交流等が行われ、村内外から多くの人々が訪れ、交流と親善の輪が広がっています。



日本語教室(フィリピン・韓国・中国)

過疎化が進むなか、農村の後継者対策としての国際結婚により、外国籍定住者が増加してきました。日本語教育はもとより文化・習慣の違いや日常生活・健康上の悩み等を解決するため、日本語教室が1990年4月19日に開講しました。2002年3月末現在で32名の外国籍定住者がおり、6名の方が学んでいます。



戸沢村国際交流協会

1985年、農家の青年たちが酒を片手に「国際化してみっか」と始めたアジア・アフリカ農村リーダーとの交流から発展してきた活動が母体となり、楽しむ交流を基本に、相互理解・多文化共生の心豊かな村づくりを目指すことを目的に1999年3月に設立されました。日韓児童交流や農業技術の交流など草の根の国際交流が展開されています。

## 【国際交流】



東京戸沢会

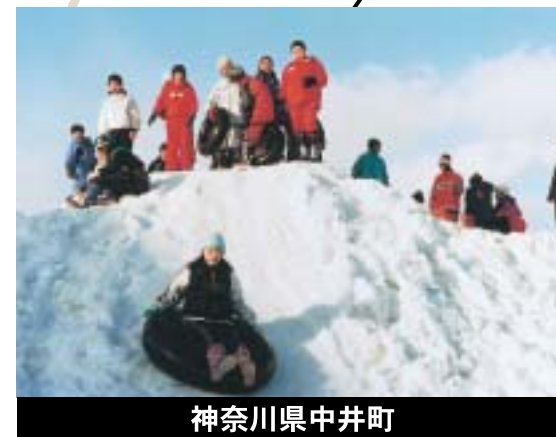
1988年3月、在京の戸沢村出身者の親睦団体として東京戸沢会が結成され、東京都北区の赤羽公園におけるチャリティ餅つき大会の開催、ふるさと研究会等の実施を通じて、会員相互の交流が図られています。また、村広報紙を通じて村民にメッセージを送るなど、ふるさとに貢献できる団体として活動しています。

戸沢村



東京都三鷹市

1975年、81年と村体育指導委員会の皆さんが先進地視察のために訪問したことやコミュニティづくりに優れた三鷹市の行政に学ぼうと新庄市升形出身の元市長坂本貞夫氏を講師に招いたこと等が契機となり、89年友好都市の盟約が結ばれました。その後、多くの市民の方が村を訪れたり、青空市場への物産の出展等を中心とし、交流が行われています。



神奈川県中井町

誘致企業である中谷総業さんの仲立ちにより始まった児童交流事業で、夏には中井町の地引き網をはじめとする海の文化を、冬には村でのスキーを初めとする雪国の文化を体験、たくさんの感動が生まれています。



# 「観光」



## 最上川舟下り

松尾芭蕉が奥の細道で詠んだ有名な一句「五月雨をあつめてはやし最上川」の最上峡の舟下りは、最上川中流部にあたる古口〜草薙間12kmを約1時間にわたって下るものです。  
 風趣に富んだ河川は四季を通じて乗船客の眼を楽しませてくれます。



## いきいきランド ぼんぱ館

子供から大人まで楽しめる未来型の温泉リゾートです。大浴場をはじめ、かぶり湯、ミストサウナ、薬湯、そして砂風呂などの施設も充実しています。泉質は含重曹・弱食塩泉で、リウマチ性疾患や婦人病、創傷などに効能があります。2Fには水着で楽しめるアクアブレイルームや、チビッコに人気のウォーターライダー、またスパゾーンには渦流浴(高温・低温)やジェットバス、サウナなどもあり気軽に温泉が楽しめます。屋外では、グラウンドゴルフ、パターゴルフ・ゲートボールなどを楽しむことができます。温泉や遊びで一汗ながした後は、レストランでの食事や休憩室でのんびりくつろぐこともできます。



## 眺河の丘・高麗館

日韓友好の村『高麗館』は、物産館(韓国文化を知る物産展示) 食文化館(韓国の食文化を紹介し韓国料理を提供する)、民俗文化館(韓国農村の民俗文化を紹介する)があり回廊で結ばれています。中庭にはノリマダンといわれ、韓国語で遊び(ノリ) 広場(マダン)を意味し、歌い踊る場所となっています。



## 最上峡ふるさと村



戸沢藩船番所から舟下りで約5Km下流の対岸に『最上峡ふるさと村』があります。大自然の中で「魚のつかみどり」や「木工クラフト」、「バーベキュー」、名物「あゆの串焼」が楽しめます。遊歩道「新・奥の細道」を歩くと、仙人堂へも出られます。

## 草薙温泉

明治四年に発見された最上川畔の温泉。最上峡のシンボル白糸の滝を望む、国道四十七号に添った温泉郷です。恵まれた自然が生む郷土料理は格別で、特に山菜料理や川ガニ料理が大変喜ばれています。



## 最上川高原ゴルフ場

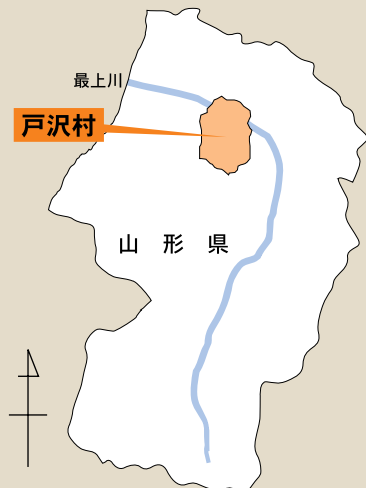
なだらかな地形を活かしたフラットなコースで、広々としたフェアウェイに豪快なドライブショットが白い弧を描く理想のコースです。

## 交通のご案内

- 戸沢村(古口)
- 東京空港(ANA) — 55分 — 山形空港 | 車 80分
  - 大阪空港(JAS) — 75分 — 山形空港 | 車 80分
  - 札幌空港(JAS) — 70分 — 山形空港 | 車 80分
  - 名古屋空港(SWL) — 65分 — 山形空港 | 車 80分
  - 福岡空港(JAS) — 110分 — 山形空港 | 車 80分
  - 東京空港(ANA) — 55分 — 庄内空港 | 車 50分
  - 大阪空港(ANA) — 65分 — 庄内空港 | 車 50分
  - 札幌空港(JAS) — 60分 — 庄内空港 | 車 50分
  - 函館空港(JAS) — 50分 — 庄内空港 | 車 50分
- 戸沢村(古口)
- 山形自動車道・山形北IC経由120分
  - 村田IC
  - 白石IC 蔵王エコーライン経由210分
  - 古川IC R47経由120分
  - 新潟 R7経由250分
  - 羽黒山 60分
  - 秋田 R7経由250分
- 戸沢村(古口)
- 新庄 (車30分)(列車18分)
  - 鶴岡 (車60分)(列車40分)
  - 酒田 (車60分)(列車43分)



本村は山形県の北部に位置し県内を縦走する出羽丘陵があることから、標高500m~1,000m以上の山々に四方を囲まれ、平地部でも30m~50mの高原地帯であります。この山麓地帯のほぼ中央部を日本三大急流の一つ「最上川」が東西に貫き、庄内地方を経て日本海に注いでいます。  
 総面積は261.53㎡、その87%が山林原野(大半が国有林野)で占められています。





# 自然と共生し、潤いとやすらぎのある村をつくらう

## 生活環境

村内を東西に横断する国道47号、JR陸羽西線は、内陸と庄内を結ぶ重要幹線です。また、村民生活に密着している村道の実延長は、約100kmで舗装等の整備が着々と進められています。村民を災害から守る河川改修や水防、日常生活にかかせない簡易水道事業や農業集落排水事業、最上川の美化を図るゴミバスターズをはじめ、雪国の特質を考慮し、県内では初めてという一戸建村営住宅（高床式平屋）など、うるおいに満ちた住みよい村づくりに積極的に取り組んでいます。



家庭からの雑排水をきれいにして川に戻す古口浄化センター



最上川と併走する国道47号、JR陸羽西線

# 健康で、生きがいと思いやりをもち人びとがくらす村をつくらう

## 福祉・医療施設

高齢化社会に対応するため、老人相談員を配置し、すべてのお年寄りが安心して暮らせるように活動を行っています。

また、村内にある特別養護老人ホーム「まごころ荘」を中心として、デイサービスやショートステイ、ホームヘルパーなど介護保険事業にも力を入れています。障害福祉や母子（父子）福祉の充実にも力を入れています。

中央診療所では、疾病治療はもちろん、予防医療を重視するために精密検査も容易に受けられるようにしています。

また、遠隔医療システムの導入を図り、在宅で寝たきりの方の症状をモニターに映し、中央診療所（村）―県立病院―大学病院というネットワークを利用することにより、早期発見・早期治療というより高度な医療福祉を行っています。

子どもたちが健やかに、たくましく育つように児童福祉施設を4か所に設置しています。



在宅患者と連絡を取り合う、遠隔医療システム



福祉行政の中心となる特別養護老人ホーム「まごころ荘」



盛んに行なわれる健康づくり教室



国民健康保険制度は戸沢村が発祥の地



冬期間の除雪体勢は万全



快適な生活を約束する一戸建村営住宅



最上川流域のゴミを拾うモモカミ・ゴミバスターズ大作戦



# 活力に満ちた 豊かな村をつくらう

## 産業

本村は四方を山で囲まれています。山村地帯における農産物の生産向上と労働力の省力化を図るうえで、生産基盤の整備が重要といえます。農業経営の基盤確立のため、県営や団体営の農地開発事業を導入し、経営規模の拡大を押し進め、あわせて流通体系の改善を図るため、過疎および、山村基幹農道の整備も進めています。

一方では生産組織を育成し、共同利用による農業機械、育苗施設、ライスセンターなどを配置し、稲作の高生産性を促進しています。また、米を主体としながらも、畜産、野菜、ソバなどを奨励し、複合経営の確立にむけ努力しています。

商業では、小規模で商業圏も狭く農家経済に依存しているのが現状です。住みよい村づくりの一翼を担う分野として位置づけ、共同店舗や商店街を創設していく必要があります。

工業の振興は、農業余剰労働力の増加、出稼ぎ解消対策などから



## 特産品

積極的に企業誘致を図り、現在では誘致企業を含め28事業所が設置されています。

このほか、林業資源の有効活用や地場産業の開発にも力を入れ、働くよろこびが生み出す豊かな村づくりに努めています。

村の特産品として、外国人花嫁との交流が契機となって生まれた「韓国花嫁指南戸澤流キムチ」があります。キムチの命といわれる唐辛子とエキス等を本場韓国から直輸入、花嫁たちから技術指導を受けた婦人たちが、地元の野菜や

山菜を用いて漬けたものです。もう一つは、低農薬栽培をしたもち米「こがねもち」を100%使用した無添加・無漂白の加工食品です。太陽の光と澄んだ空気をいっぱい吸った、自然乾燥によるこだわりの逸品は昔なつかしい味を思い起こさせます。



雇用の場を創出する村内企業

低農薬、自然乾燥米を使用した  
こだわりの逸品



交流が契機となり誕生した  
戸澤流キムチ



労働時間の短縮を図るため  
直播による田植えを導入



省力化、合理化を  
目指す農業経営



地元産のそば粉を用いての  
「手打ちそば講習会」



みやげ品売場をイメージアップ



# 創造性豊かな人びとが暮らし、文化が育つ村をつくらう

## 学校教育

「ふるさとを愛する心豊かでたくましい子ども」の育成をめざし、「心」「知恵」「たくましい力」を育む教育を重点に推進しています。地域の素材を生かし、地域の人材を活用して「特色ある開かれた学校づくり」を進めていくとともに、地域や保護者の考えを取り入れながら児童生徒の「生きる力」の育成を図ります。

## 社会教育

青少年教育の充実をめざし、各集落に青少年担当委員を配置し、地域主導による地域活動のあり方を模索してきました。継続的な地域活動が行えるよう青少年関連団体を支援し、「地域の子どもは地域ぐるみで育てる」という村民の意識を高め、地域の教育力の向上を図ります。



# 村民が主体的に参加し、協働する村をつくらう

## 行政・議会

行政組織は8課2出張所と議会事務局・教育委員会・農業委員会、それに診療所・保育所・児童館のほか小学校4校・中学校2校をそれぞれに地域に配置しています。

また、複雑多岐にわたる行政需要に対処し、行政の効率的遂行のため、昭和44年から最上広域市町村圏事務組合が組織され、消防・救急・ゴミ・し尿の広域処理を実施し、住民福祉の充実に努めます。

村議会は、明日の戸沢村を住み良い村にするために、村民の声を村政に反映させる重要な役割を担っています。現在、戸沢村議会は村民の皆さんを代表する14人の議員で構成されています。



戸沢村長 渡部 秀勝

## 村民総参加型の村づくりをめざして

私たちの戸沢村は、豊かな美しい自然いっぱいの農村です。村の中央を日本三大急流の最上川が東西に貫き、古くから最上川舟運の要衝として栄え、松尾芭蕉はじめ多くの文人達の歴史が数多く残されています。

さて、戸沢村では、21世紀の幕開け2001年を初年度とする第3次戸沢村総合計画を策定し、新しい村づくりとして参加、創造、共生を目標に「豊かな自然に四季のかおりと舟唄のこだまする村をつくらう」を将来像とし、各種施策に取り組んでいるところであります。

また、豊かさや潤いを実感できる村づくりのため住民との対話を基本に、村民と行政が共に考え、話し合い、協力し合う「協働」の心を共通基盤として、村民総参加による、明るく元気な活力ある住みよい村づくりをめざしてまいります。

この要覧は、現在の戸沢村の姿を紹介するものであり、21世紀の村づくりを皆様とともに考え、語り合うための一助としていただければ幸いに存じます。



村議会議員

門松づくりに挑戦する地域グループ



健康を維持する生涯スポーツ



中央公民館等を拠点に振興される生涯学習



# 戸沢村行政の水準に関する現況指標

区分	項目	算出根拠	平成4年(A)		平成7年		平成9年		平成11年(B)	
			根拠	比率	根拠	比率	根拠	比率	根拠	比率
村道	改良率	改良済み延長(m)	49,313	53.6	62,524	63.0	68,754	66.2	71,589	68.0
		実延長(m)	91,923		99,275		103,861		105,239	
	舗装率	舗装済み延長(m)	49,568	53.9	64,288	64.8	68,210	65.7	89,090	84.7
		実延長(m)	91,923		99,275		103,861		105,239	
	歩道	歩道延長(m)	-	-	1,263	1.3	3,123	-	3,030	-
		歩道計画延長(m)	-		99,275		0		0	
農道	村有農道率	村有農道延長(m)	0	0	6,146	8.8	3,650	5.3	4,850	6.3
		全農道延長(m)	66,124		69,774		68,630		76,630	
	改良率	改良済み延長(m)	66,124	92.5	66,805	92.4	60,659	84.9	68,659	96.1
		全農道延長(m)	71,468		72,280		71,468		71,468	
林道	民有林道整備率	民有林道整備済み延長	12,874	67.8	15,182	72.5	15,112	77.6	15,112	72.4
		民有林道整備計画延長	19,000		20,937		19,470		20,867	
公園	住民一人当たりの公園面積	公園保有面積(m <sup>2</sup> )	17,373	239.7	17,373	249.6	17,373	253.0	17,373	256.9
		人口	7,248		6,959		6,866		6,762	
	公園整備率	公園現有数	2	66.7	2	66.7	2	66.7	3	100.0
		公園計画数	3		3		3			
	遊園地整備率	遊園地現有数	9	23.1	13	33.3	21	53.8	13	33.3
		遊園地計画数	39		39		39			
医療	住民一人当たりの医師数	医師数	2	0.02	3	0.04	3	0.04	3	0.04
		人口	7,248		6,959		6,866		6,762	
スポーツ	住民一人当たりの公共スポーツ面積	スポーツ施設面積(面積)	34,221	472.1	34,221	491.8	34,221	498.4	52,132	771.0
		人口	7,248		6,959		6,866		6,762	
	住民一人当たりのスポーツ施設数	スポーツ施設数	3	0.04	3	0.04	3	0.04	6	0.09
		人口	7,248		6,959		6,866		6,762	
保健	健康管理等施設	健康管理等施設	1	0.01	2	0.03	1	0.01	1	0.01
		人口	7,248		6,959		6,866		6,762	
水道	水道施設の普及	普及集落数	29	74.4	30	76.9	30	76.9	29	74.4
		集落数	39		39		39			
下水道	下水道施設の普及	現在排水人口	0	0	405	5.8	396	5.8	367	5.4
		人口	7,248		6,959		6,866		6,762	
廃棄物処理	ごみ	ごみ収集人口	7,248	100.0	6,959	100.0	6,866	100.0	6,762	100.0
		ごみ計画収集人口	7,248		6,595		6,866		6,762	
	し尿	排出量/人一日	945×7,248	945	713×6,959	713	200/365	ℓ	2,999/365	ℓ
		し尿収集計画人口	7,248		6,959		6,866		8.0	

区分	項目	算出根拠	平成4年(A)		平成7年		平成9年		平成11年(B)	
			根拠	比率	根拠	比率	根拠	比率	根拠	比率
防災	消防	消防ポンプ保有数	50	166.7	33	106.5	44	146.7	32	106.7
		消防ポンプ基準数値	30		31		30			
		消火栓保有数	212	200.0	89	59.7	223	204.6	89	84.0
		消火栓基準数値	106		149		109			
		防火水槽保有数	111	63.8	18	12.1	125	71.8	126	72.4
		防火水槽基準数値	174		149		174			
児童福祉	保育収容率	保育収容児数	240	100.0	148	100.0	132	100.0	112	100.0
		4~5才人口	240		148		132			
老人福祉	65才以上人口率	65才以上人口	1,286	17.7	1,512	21.7	1,683	24.5	1,753	25.9
		人口	7,248		6,959		6,866			
	老人福祉施設	現有数	0	0	0	0	3	75.0	3	75.0
		施設計画数	4		4		4			
小学校	1学級当たり児童数	小学校児童数	586	19.5	517	19.9	477	19.1	446	19.4
		小学校学級数	30		26		25			
	児童一人当たり校舎面積	校舎面積	10,669	18.21	10,094	19.52	10,070	21.1	10,070	22.6
		児童数	586		517		477			
	危険校舎率	危険校舎面積	0	0	0	0	0	0	0	0
		校舎面積	10,669		10,094		10,070			
	校舎不足率	不足面積	834	7.3	0	0	1,446	12.7	1,234	11.0
		基準校舎面積	11,503		9,050		11,392			
	完全給食率	実施児童数	586	100.0	517	100.0	477	100.0	446	100.0
		児童数	586		517		477			
中学校	1学級当たり生徒数	中学校生徒数	314	26.2	275	25.0	288	24.0	281	28.1
		中学校学級数	12		11		12			
	生徒一人当たり校舎面積	校舎面積	4,716	15.0	5,020	18.3	4,805	16.7	4,506	16.0
		生徒数	314		275		288			
危険校舎率	危険校舎面積	0	0	0	0	348	7.2	0	0	
	校舎面積	4,716		5,020		4,805				
校舎不足率	不足面積	0	0	60	113	1,574	24.7	1,113	19.8	
	基準校舎面積	4,716		4,586		6,375				
完全給食率	実施生徒数	314	100.0	275	100.0	288	100.0	281	100.0	
	生徒数	314		275		288				



豊かな自然に四季のかわりと  
舟唄のこだまする村

## [とざわ]

戸沢村勢要覧2002

- 発行日／平成14年3月
- 発行／山形県戸沢村
- 企画・編集／戸沢村企画調整課  
〒999-6401 山形県最上郡戸沢村大字古口270  
TEL.0233-72-2111 FAX.0233-72-2116
- ホームページアドレス  
<http://www.vill.tozawa.yamagata.jp/>
- Eメールアドレス  
E-mail: tozawa@vill.tozawa.yamagata.jp



### ■村章

村民の円満と和合をはかり、本村の進歩、発展を戸沢村の「と」の一字をもって象徴したものです。昭和40年3月村民より公募、昭和40年4月1日制定されました。



### ■村の木・山ノ内杉

最上峡一帯のみに生い繁っている天然杉で、幹が分裂し、枝葉が細かく、伽羅木の大木のような奇形で、地上4メートルから伐っても枯死しないという自然杉である。



### ■村の花・ヒメサユリ

高山や山地に生える多年草で、6～8月茎の先に1～3個の花が咲く。自生地は日本でも限られており、現在学界での北限は戸沢村とされている。